



勝って引き上げてくるウェイマウス騎手



ウェイマウス騎手が見事勝利したレース



ストラサルビンで借りたマーキーのエリアが
こんな感じ

世界旅打ち気分

●第36回・ストラサルビンとウーラマイ

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>の
#グリーンファーム会報#2021年6月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

アマチュア馬手だけで開催が成り立つのかと思われるだろうが、馬乗りの多いオーストラリアではこれが成り立つのである。元プロの参戦はプロ当時の成績次第(プロで一定以上勝った騎手はアマチュアライセンスを取得できない)だそうで基本的にはアマチュア一本鎗の騎手が多いのだが、それでも

各競馬場で年に一度の大レースが行われるお祭り開催のようなものである。メトロと違つてカントリーは大レースがあるわけではなく、ふだんは馬主や競馬マニアが来るだけで開催そのものはひとつそりとしている。しかしカップデーはふだん競馬をやらない地元民がたくさん集い、町内会で仕立てたバスなども何台もやってきて、年に一日だけの盛り上がりを見せる。

そういう開催なので、場内はいつもがえしている。スタンンドの大きな競馬場なら撮影本拠地になる部屋を貸してもらったりもするのだが、そういう施設もない。むしろの口けにあたつては、マーキーを予約していく。

マーキーというのは日本でいうメントで、そこにテーブルと椅子が付随した設備のことを指す。オーストラリアの競馬場では、来場者の多い開催でよく設定されている。企業が貸し切る100人規模の大きいものから、4~6人テーブルの小さいものまで、いろいろなパターンがある。オフショアで食事のケータリングを受けたりすることも多いのだ。

賞金水準やレースのレベルは高くないが、それでも馬が好きで好きで仕方がない、という人々が集まっているのがピクニック競馬の魅力だ。馬主から騎手まで全部家族とか、子連れの主婦騎手とか、手作り競馬の雰囲気が実に良い。そんな中でもさうに異色のキャラとして知られているのがデイビー・ウェイマウスという女性騎手。撮影した2018年の段階でたしか61歳だったと思うので、いまは64歳。しかし現役を続けている娘さんが調教師で、その管理馬に乗る

2021年のV-C州でいうと26人の登録騎手がいる。リストを見ると最低騎乗斤量が最も軽い騎手で55キロ、その一方で60キロ以上が14人と過半数(最も重い騎手で64.5キロ)なので、体格的理由で一般騎手の道を断念した人がアマチュアとして乗っていることも多いのだ。

これまで乗るとかは考えたことがない」という力強い「メン」ト。普通に地面を歩いているときにはちよとお婆さん感があるのだが、馬に跨るとシャキッとして騎乗も力強く、これぞピクニック競馬の醍醐味という感じであった。

ちなみに、この口け日もウーラマイのカップデーで、メインレースはウーラマイカップ。当時V-C州ピクニック競馬のリーディングを争っていたコートートー・ペース騎手という女性騎手が優勝した。

年イチのレースであるウーラマイカップでも賞金総額は6000豪ドル、1着2760豪ドル(日本円で約22万円・2021年現在)だが、それでも勝った馬主は感激して泣いていたり、競馬のピュアな部分を見る思いがする。

V-C州でピクニック開催を行う競馬場は12場。場内のブックマークにしても電光掲示の現代的な

2021年のV-O州でいうと26人の登録騎手がいる。リストを見ると最低騎乗斤量が最も軽い騎手で55キロ、その一方で60キロ以上が14人と過半数（最も重い騎手で64・5キロ）なので、体格的な理由で一般騎手の道を断念した人がアマチュアとして乗っている」とも多いのだね。

賞金水準やレースのレベルは高くないが、それでも馬が好きで好きで仕方がない、という人々が集まっているのがピクーツク競馬的魅力だ。馬主から騎手まで全部家族とか、子連れの主婦騎手とか、手作り競馬の雰囲気が実に良い。そんな中でもさすがに異色のキャラとして知られているのがデイビッド・ウェイマウスという女性騎手。撮影した2018年の段階でたし

ちなんに、この口吻もウーラマのカッププレーでメインレースはウーラマイカップ。当時V-O州ピクーツク競馬のリーディングを争っていたコートニー・ペース騎手という女性騎手が優勝した。

年イチのレースであるウーラマイカップでも賞金総額は6000豪ドル、1着2760豪ドル（日本円で約22万円・2021年現在）だが、それでも勝った馬主は感激して泣いていたり、競馬のピュアな部分

マークー」というのは日本でいうストラリアの競馬場では、来場者の多い開催でよく設定される。企業が貸し切る100人規模の大きいものから、4~6人テーブルの小さいものまで、いろいろなパートナーがある。オブションで食事のケータリングを受けたりすること

テントで、そこにテーブルと椅子が付随した設備のこと)を指す。オーバーアルビン(向こうではスマッシュオンザフィールドなどと呼ぶ)に参加しなかつたことだ。

ストラサルビンでは男性のエントリーが数人しかなく、しかも目立った服装で来た人はゼロ。撮影用衣装の私が出ればたぶん勝ったのに」と主催者にも言われた。これはのちのち再挑戦したいところである。インタビュードマイク向けられる

各競馬場で年に一度の大レースが行われるお祭り開催のようなものである。メトロと違つてカントリーは大レースがあるわけではなく、ふだんは馬主や競馬マニアが来るだけで開催そのものはひとつそりとしている。しかしカップデーはふだん競馬をやらない地元民がたくさん集い、町内会で仕立てたバスなども何台もやってきて、年に一日だけの盛り上がりを見せる。

そういう開催なので、場内はいつもがえしている。スタンドの大きな競馬場なら撮影本拠地になる部屋を貸してもらったりもするのだが、そういう施設もない。そこでこの口げにあたつては、マーキーを予約していく。

日本での競馬場には指定席こそあるが、馬場に近いところではペーティーのような楽しみ方をできる席というのではない。SA州やV-C州に限らず、オーストラリアの競馬場はそのほとんどでマーキーのネット予約が可能（支払いはクレジットカード）なので、家族連れやグループでの旅行におすすめしたい。

このストラサルビノでひとつ悔やんでいるのが、カップデーによくあ